

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972300479		
法人名	医療法人木水会		
事業所名	グループホーム八州苑		
所在地	栃木県栃木市藤岡町1396-1		
自己評価作成日	平成26年10月1日	評価結果市町村受理日	平成26年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑鮮やかな三轟山、広大な湿原で知られる渡良瀬遊水地、周辺には豊かな自然が溢れています。施設内では家庭的な環境のもとで、日常生活の介助を通じて、安心と尊厳のある生活を支援しています。グループホーム合同で行う納涼祭、隣接する老健施設との合同運動会、各月の誕生会、敷地内の畑でのジャガイモや、他数種類の野菜の栽培など、季節折々の行事を通し、人と人のふれあいや自然の営みに心弾ませる、そんな優しさを大切にしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは栃木市の南部、旧藤岡町に位置し、周辺は雑木林や田畑が広がり、季節をいち早く感じさせる環境にあり、県内で二番目に設立された伝統ある施設である。道を挟んだ向かい側には同一法人が運営する介護老人保健施設やグループホームがあり、体調の急変時や災害時等の連携が構築され、利用者の安心、安全な暮らしを支えている。職員は5つの理念と3つの行動指針を心に、地域一番のサービスをモットーとして常に研鑽に励んでいる。施設長、管理者、職員間の意思疎通が図られており、利用者を主体とした温かい支援に努めている。また、入居者は5年から10年と継続されている方が多く居心地良く過ごされている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成26年10月22日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	5つの基本理念の他に3つの行動指針を定め、ホーム内に掲載すると共に、朝の申し送りの際に唱和し、共有化を図っている。	「一人ひとりの個性を尊重した支援」など5つの基本理念と「ゆったり」「たのしく」「いっしょに」という3つの行動指針を掲げ、毎朝の申し送り時に唱和し、常に共有・実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住宅地ではないため、近隣住民は疎らであるが、地元のお祭りに参加したり、施設運営の月毎の行事に参加してもらったりと、交流は保たれている。又、3ヶ月に一度、定期的に施設の広報誌を発行している。	地域の夏祭りには神輿やおはやしが事業所に来てくれるほか、小学校の運動会にも招待されている。また、法人合同の敬老会など行事ごとに保育園児やボランティアの訪問があり、地域とのつながりを大事にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内に複数の介護事業所があるため、ホーム単独ではなく、それらの事業所と連携して、ボランティアや実習の受け入れ、講演などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地元駐在所、地区の民生委員地域包括支援センター、市の職員に出席していただき、情報交換を行ったり、助言を受けている。会議の結果は全てのスタッフに周知し、ホームの定例会などの議題として、話し合いサービス向上につなげている。	利用者・市職員・地域包括支援センター・民生委員・駐在所等をメンバーとして2か月に1度開催し、運営状況の報告をするとともに意見・要望等をサービスの向上に活かしている。なお、今年度からは隣接する同一法人の2つのグループホームと合同で開催している。	家族の日程が合わず参加が少ない状況にある。今後、隣接するグループホームとも相談の上、家族や地域消防団、自治会役員等の参加が得られるような工夫と働きかけを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人内の複数の事業所と共に、市の担当者とは密に連携が取れており、お互いの意向はスムーズに伝わっている。又、運営推進会議は議事録を提出している。	書類の提出時や介護保険の更新時など日頃から運営状況を伝えたり相談したりと連携を密にとっている。また、市職員が避難訓練にも参加して意見をもらうなど協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフは身体拘束を理解しており、現在は身体拘束はしていない。	身体拘束に関するマニュアルを作成し、周知を図っている。また、話しかけ介護十則、介護十戒を掲示し、毎月法人全体で一つの重点目標を定めて支援に当たっている。さらに言葉遣いについて管理者からや職員同士でも注意し合いケアの実践につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時に全身の状態を観察し、傷、アザがあった際には原因を確認すると共に、全てのスタッフで情報を共有できるように伝達帳に様子を記入している。又、高齢者虐待防止法に関する勉強会を持ち、理解を深めている。		

グループホーム八州苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「あすてらす」や「成年後見制度」に関する勉強会を持ち、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする時は、担当者が分かりやすく説明をし、納得していただいた上で契約をしている。又、解約をする際は十分な話し合いを持ち、退去先など、その受け入れ先が決まってから退去していただく。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱や苦情解決制度の案内をホーム内に設置、掲示すると共に、利用者との対話、家族の面会時には職員側から積極的に関わりを持ち、意見を伝えやすい環境を作り、運営に活かしている。又、重要事項説明書内に苦情窓口を記載している。	運動会などの行事や面会時に家族へ近況を報告するとともに、「利用者をでき得る限り歩かせて欲しい」等の具体的要望を聞きケアに反映するように心がけている。毎月の家族へのたよりにも「お気軽にお聞かせください」と書き添えるなど意見を引き出すよう配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月毎の定例会の場において、又、それ以外でもスタッフからの問いかけを随時行っており、それを運営に反映させている。	職員からは例えば、利用者とのコミュニケーションの時間の確保やレクリエーションへの職員参加などの随時意見が出され、管理者は運営に反映させるよう努めている。また、年1回施設長とグループホームごとの話し合いがもたれ、意見や提案が運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	課題に応じたレポート提出を行うほか、各種研修の案内等も告知して、自己啓発しやすい環境を作ると共に、スタッフのスキルアップを意識した運営を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場研修を行っているほか、外部研修にも積極的に参加している。ホームでは、課題を決めて、レポートを提出している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修には積極的に参加をして交流の機会を持っている。又、同法人内の介護サービス事業所との勉強会や、行事等の機会もあり、それらを通じてサービスの質の向上を図っている。他の事業所からの研修を受けている。		

グループホーム八州苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の心身状況の他、生活歴や生活環境等、出来る限りその方のことを聞き取って理解し、その方がホームに入居した場合の生活をイメージしながら相談をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記の中で特に家族関係に重点を置き、施設生活における家族の要望を聞き、今後についての相談をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームを第一に考えるのではなく、まず、本人と家族の状況を把握し、何を求めている、何を必要としているか第一に考え相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは、利用者から料理、畑仕事などを教えていただいたり、昔話を聞かせていただいたりと分からないことを教わりながら共に過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況の報告や、状態の説明をこまめに行っており、(手紙、電話、面会時)本人と家族の関係が細かくならないように配慮している。面会の少ない家族に対しては、面会の促しを行い、ホーム運営の理解と協力を仰いでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙の希望があれば、積極的に支援している。また、面会者が来られた際は、お茶を出しつづぎやすく来訪しやすい環境作りに配慮している。	高齢化に伴い、馴染みの人や場との関係も薄れてきているが、隣接するデイサービス利用者との交流や実家への帰省の支援に努めている。また、知人が訪問してきた場合は、お茶やお菓子を出しゆっくり過ごせるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは利用者一人一人に声掛けをしており、利用者同士の関係を把握すると共にトラブルが起きた際には双方の話をそれぞれ納得がいくまで聞き、問題解決に繋げる努力をしている。		

グループホーム八州苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談などは随時受け付けており希望される方には法人の広報誌「やすらぎ」の送付を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用して、本人の希望、趣味や嗜好の把握に努め、それらを踏まえた上で仕事、役割、レクリエーション、行事などを検討している。	入浴時やトイレ介助時などの雑談等を通じ利用者の思いや意向の把握に努めている。また、難聴の方や認知症の進んだ方については紙に書いて問いかけるなど本人の思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時のヒヤリングの他、入居後の何気ない会話にも注意を払い、センター方式を活用してこれまでの生活の暮らしの把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を介護記録に正確に記録し、また定例のスタッフミーティング等を通じて、全スタッフが個別の情報を共有し、状況を把握してケアプランに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族のヒヤリングを基に、医療関係者、介護スタッフの意見を加味してケアプランを作成している。	利用者、家族のニーズを踏まえ、担当職員、協力医の意見も反映させ3か月ごとに介護計画の見直しをしている。状態に変化が見られた場合には随時の見直しとともに家族にも報告をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各種記録表を整備し、事柄だけでなく、会話の内容や表情も記録している。それらのファイルは、スタッフがいつでも目を通せる場所に保管しており、情報を共有しながら介護に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホーム単体のみならず、法人内の他事業所と連携し、本人と家族の希望や状況に応じた対応、支援をしている。		

グループホーム八州苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公共施設の利用や行事への参加、ボランティアや実習生の受入れ等、地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族と相談の上でかかりつけ医を確保しており、受診時には本人の状況を的確に伝えられるよう状況表や、各種記録物を持参してスムーズな診察が受けられるよう支援している。	全員が入居前のかかりつけ医から協力医に変更して、月2回出向いて受診している。歯科については協力医及び訪問診察を仰いでいるほか、協力医以外の専門医の受診は家族対応となっている。健康面での変化がある場合には家族に報告し、情報の共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人内に看護師が複数名おり、当ホームを訪問し、利用者の日常の健康管理のほか、スタッフの相談も請け負っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と医療関係者で話し合ってもらうと共に、計画作成担当者が家族(必要に応じて医療関係者)と連絡を密にとり、早期退院に向けた対応をその都度検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りの指針」を作成し、当法人の方針について家族への説明を行い理解を頂き、重度化や終末期に備え準備している。又、早期段階から家族、主治医と相談する機会を持ちそれぞれと密な情報交換を行い、入院や他サービスの利用を含め本人と家族の意向を尊重し、納得する方針に沿った対応を心がけている。	看取りに関する指針を作成し、家族には利用開始時に説明している。まだ看取りの事例はないが家族の希望や協力医の意見を聞き、十分説明したうえで対応できるよう取り組んでいる。さらに利用者の状態が急変した場合の対処方法について全職員が熱心に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会により、事故発生時の初期対応などの習得をしている。又関係医療機関や看護師、スタッフとの連絡網を整備し、スムーズな対応が取れるよう努めている。緊急車両の要請についても地元消防署との通報訓練により備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施している。消防署とも連携を取り、通報訓練を行っている。	消火訓練、通報訓練は法人全体で実施しているほか、夜間想定避難訓練を年1回、日中の避難訓練を年2回実施している。また、同一法人のグループホームとは役割分担をし、連携して災害に備えている。備蓄については同法人の介護老人保健施設で準備している。	

グループホーム八州苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフはミーティングや毎日の介護を通して利用者の状態(精神的、身体的なもの)を把握しており、守秘義務を理解したうえ、それぞれの利用者に応じた対応をしている。	利用者には基本的にさん付けで統一するとともに共感を持って接し、「..してはダメ」というような否定的な言葉遣いにならないよう人格を尊重した支援に努めている。また、電話は自分の部屋でできるようプライバシーの確保にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り自己決定をしていただけるよう、「お伺い」をたててから行動している。又、「促し」や「励まし」によって自発的に行動していただけるよう工夫し、声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活を保てるよう、基本的な時間割はあるが、本人のペースを尊重し、「お伺い」をたててから行動している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服を選んで着て頂き、スタッフは季節や気温、汚れなどに気を遣いサポートをしている。又、美容院については、本人の希望に合わせて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物や、調理、準備、片付けなどができる範囲で手伝って頂いている。又、昼食はスタッフと一緒に利用者とお話を楽しみながら食べている。毎日一人(食)は職員も同じ食事を摂っているが他の職員も摂れるように行事を工夫している。	法人の管理栄養士が作成した献立に基づき職員が手作りしている。誕生日などは利用者の希望を聞き近くのファミリーレストランでの外食等を取り入れている。また、利用者にも座ってできる準備や後片付けをしていただくなど食事が楽しみとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや栄養バランスを考えた献立を管理栄養士が作成し、毎食後摂取量をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前にうがいを行い、毎食前に口腔体操を行っている。食後はスタッフが声を掛けて個々に必要な歯磨きの支援をしている。又、入れ歯は定期的にスタッフが消毒している。		

グループホーム八州苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日個別の排泄記録をつけて、排泄パターンを把握し、時間毎のトイレ誘導と使用物品の工夫により対応している。	排泄パターン表を作成し、プライバシーに配慮しながらトイレ誘導を行っている。夜のみのオムツ使用者が2名と自立している利用者が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操を実施し、こまめな水分摂取にも配慮している。又、食事以外でも希望者には牛乳やヨーグルト、ヤクルト等を出している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴希望の確認を毎日行い、時間帯や長さも出来る限り本人の希望に合わせられるよう配慮している。	毎日入浴の声掛けをし、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。1日おきや2日おきに入浴される利用者が多い。また、柚子湯など季節に応じた入浴を楽しむ支援も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息している方がいる時や夜間は、大きな物音に注意し、寝つけない方がいる時は、ゆっくり話し相手になり、安心して再入眠出来るよう一緒に過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の確認を把握できるよう、薬の提供書をファイルしており、いつでも処方された薬に関する情報が確認できる。又、薬の変更があった際は、伝達帳にも記入し、出勤したスタッフがすぐわかるようにしている。協力病院の薬剤師とは24時間連絡を取ることができる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や調理などで、出来る事、出来そうなことは、手伝って頂けるよう促している。又、馴染み深い仕事は教えていただきながら、スタッフも一緒に作業することを心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外でレクリエーションをしたり、散歩に行ったり、家庭菜園の作物の育ち具合を確認しに行ったり、外に出る機会を多く設けている。買い物に行く際も声をかけて、一緒に行って頂いている。本人の希望に応じて、家族に外出の協力を仰いでいる。	日頃から事業所周辺の散歩や家庭菜園を見に行くほか、季節ごとに近隣市町の花見に出かけるなど外出の機会を多く持つよう支援している。また、盆、正月の帰省など家族による外出の支援にも取り組んでいる。	

グループホーム八州苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で管理しているが、小銭程度のお金を持っている方もいる。個人の買い物の時など支払をお願いすることもある。お金の出し入れがあった場合は、出納帳にレシートを保存し、家族面会時には確認してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との通話の際はコードレスフォンを利用して居室内で電話していただいたり、手紙を送る際は施設の封書に同封したりと大切な方との連絡を取るサポートをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使うものと同じものを使用したり、テレビの音や照明、日差しの調整は利用者を確認を取りながら行っている。室内の装飾は季節毎に変え、利用者が作成した作品も飾り、居心地良い空間作りに配慮している。	玄関、廊下、食堂など共用空間は清潔で温度調節もされ心地よく過ごせるよう配慮されている。食堂兼リビングは利用者の作成したちぎり絵やぬり絵が飾られるとともに行事予定表や毎日の職員の出勤状況がわかるような工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の椅子やテレビ周りのソファ、玄関周りの椅子など、自由に過ごせるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器などを含め、ご自身で使用されるものは使い慣れた馴染みの物を持ちこみ、利用して頂いている。居室内の家具や、装飾なども同様。	利用者の部屋の入口には行事等での本人の写真が飾られ家族への情報発信ともなっている。各部屋は思い思いに写真などが飾られ、使い慣れた筆筒やベッド、畳などが持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内への手すりの設置や物干し台の高さの調節、椅子利用時の踏み台の作成等その人の身体に合った工夫をしている。又、それぞれの人がわかりやすいよう表示、掲示物の大きさや高さ、飾り等の調節を行い利用しやすい環境作りに努めている。		